

「第3回（令和4年度 第1回）日田市文化財保存活用地域計画協議会」の主な意見

1. 開催日時 令和5年3月21日（木） 10:00~12:10

2. 場所 日田市役所本庁舎4階庁議室

3. 議事

(1) 事業の進捗状況について【資料①~⑩】

(2) 文化財の総合把握調査について【資料⑦~⑨】

(3) 日田市の「歴史文化の特徴」について【資料⑪・⑫】

4. 連絡事項

(1) 今後のスケジュールについて【資料⑬】

5. 議事内容

(2) 文化財の総合把握調査について

- ・ 市民の方にワークショップを実施していると知っていただくことも地域計画を作成していく中で、必要だと思う。簡単にできる発信方法を少し考えていただければいいかなと思う。
- ・ せっかくワークショップを開催されたので、限られた方々のみではなく、一般の方の声をさらに聞くために公開されると良いかと思う。ワークショップに反応してくれる方が必ずいらっしゃると思う。日田市のホームページの中で意見をそこに投稿できるような形にできたら、もう少し広く様々な方々のご意見をお聞きできると思う。周知することは非常に大事なことになるので、事業進捗をプロセスの中でも、周知を続けていくということが大事かと思う。
- ・ キーワードやワークショップで出てきた内容について、知らないこともあったので、大変興味深いと思った。
- ・ 日田市の中でも旧日田市内の文化財は、非常に中心的に取り扱われるケースが多く、ワークショップの中でもどうしても旧日田市内の代表的な鶴飼や祇園というテーマが取り上げられていた。これらのテーマも大事だとは思いますが、日田自体が幕府の直轄地で江戸時代には郡代役場が置かれて、その間の旧道または古道というか、旧日田市で成り立っていたわけではなく、周辺の旧郡部も非常に大事なものがあったからこそ、今の日田市が生きてきたと考えている。合併の前はそれで良かったのですが、合併後も旧日田市のことばかりが議論されていることが多いと見受けており、旧郡部に関してももう少しスポットライトを当ててあげていければ良いのではないかと考えた。
- ・ 日田の盆地を中心に考えても、周りに流れ込む川、水を繋ぐ山、その水源である山からの水が集まる場所が日田であると考えられます。日田は町として、都市的な要素があることから祇園と呼ばれるものがあり、それをうまく繋げられるようなストーリー、論理を組

み立てることで、先ほど幾つか出てきたテーマを流れとして、スムーズに日田全体をうまくストーリー化できると思う。既に見えてきているとは思いますが、山があり、盆地があるということが、ひとつの流れの中でリンクしているのが日田の世界であるということが、理解できるような組み立て方をすれば、うまくストーリー化できるかと思う。木を切って山から下りてくるという流れは、津江等の山間部と中心部である里は繋がっていて、日田に木材が全て集まってくることになる。そのような関係からうまく組み立てていくと、周辺部を取り残すことなく、周辺部があってこそ日田の町が成り立っているということが良く分かるかと思うので、これから十分に考慮していただきたいと思う。

- ・ ワークショップで色々な未指定文化財が出てきているが、もうひとつ市の方でやらなければならないのは、既存の市町村史の中に記されている行事や無形のものも含めて未指定文化財をリストアップしていく作業をワークショップと同時にさせていただくこと。ワークショップだけでは網羅できないと思うので、既存の市町村史あるいは郷土史関係の資料からリストアップしていただきたい。ワークショップに参加される方も地域の全てを分かっておられるわけではないため、地道な作業も必要になるのではないかと思う。
- ・ それをしっかりとやっていただいた上で、ワークショップの成果を入れることによって、厚みがある計画ができあがっていくと思う。そして、早急にその作業を進めていただいて、両方合わせて未指定文化財として取り上げる。今後足していくことは構わないが、現時点で気が付くところでこのくらいの数ということで、基準となる現在把握している分を出していただかないといけないので、その作業を合わせて進めていただきたいと思う。  
今回出てきているものの中に人物があるが、これもひとつのお宝であり、指定になっているものでもない。また、地名や伝説は、ストーリー上かなり重要で、特殊な地名が付いている土地に対して、人は何かしら思いを持っていることがあるが、それには伝説が伴っていたりする。行事という具体的なものもあるが、地名や伝説が意外と地域の中の歴史を掘り起こすときに、非常に大事なポイントになるため、その辺も含めてもう少し出していきたいかと思う。
- ・ 3回目のワークショップの際に、日田祇園の曳山行事の話が出ました。その時感じたのは、曳山行事は派手ですから観光にも良いということで、クローズアップされるのは良いのだが、本来の祇園曳山巡行というのは何かというと、隈の方で言うと、若宮神社から八坂神社まで神輿が下ってきて、昔は一晩泊まって帰っていきました。今は人が揃わないので、1日のうちに行って帰ってしまう。曳山というのはそれに隨身する行事であって、本来の目的は、五穀豊穡や無病息災などをお祈りするためのお祭りであるということ、若い人たちは知らないのではないか。本質を知ってほしいと思う。そのようなお祭りのために曳山行事があるのだということ、考えていかなければならないのではないかと思う。次の世代に残していくためには、本質はこうですよということも説明した上で、観光利用していかなければならないと思う。

- ・ その地域の言い伝えや文化を考える上で、伝説は非常におもしろく、歴史ではないかもしれないが、地域の人たちが何を考えていたのかが非常に良く分かる。そのような伝説には、伝説伝承地という形でそれが伝わっている、あるいはまつわる場所が出てくる。そのようなものを今から新しく聞いて回るといのは不可能に近いですが、今まで書かれた色々な本の中に出てきているので、リストアップして行って、物語のソースとして活用していくということも出来ると思う。今まで文化財という形である程度限定されていたものしか見ていなかったですが、より広い目で見て行って、日田の特徴を良く物語る伝説というものを、伝説伝承地という形で場所を特定しながら集めていくということも、面倒な話で申し訳ないが、ユニークな計画を作っていくひとつの方向性ではないかと思う。

### (3) 日田市の「歴史文化の特徴」について

- ・ これだけ多くの意見と特色が出てきている。これをもっと練り上げていかなければならないが、日田でしか出来ない案や、ストーリーが幾つかできると思う。まだ掘り下げていけないといけない部分もあるが、何とか可能な感じがする。ただ一つ、考えておかないといけないのは、地域計画は文化庁の審査を受けて認定を受ければ終わりというものではなく、そこが出発点になる。幾つかストーリーは厳選することになると思うが、そこに漏れてしまったもの、ストーリーにはならなかった種についても一緒に記載し、地域計画を動かしていく中でさらにストーリーを追加していけるようなかたちにしていただきたいと考えている。その中で新たなテーマの捉え方もできるのではないかと考えている。
- ・ 前回の意見で足りていないところは、水とか山とか日田盆地を中心とした枠組みに加えた、もっと広い視点だと思う。どういうことかという、俗に言う天領日田といっても天領だけではないと言われるかもしれないが、日田が九州の中であるいは日本の中で、どういう位置づけを持っているのかという考え方。日田の中のものだけ見て水が集まる場所とすると狭い世界だけになってしまうのですが、もう少し広げた日田全体が、九州あるいは日本という中にどんな位置づけを持ってるのかという視点を入れ込んでおく必要があると思う。
- ・ 私もそう思う。私の言葉でいうと、周辺ではなく「周縁」。中心があって周辺から同時に何か新しいものが生み出されているし、時にはその周辺が次の中心になったりする。日田を広い世界で見たときになにかあるのではないかと意識的に捉えていくのがよいかと思う。
- ・ 筑後川が上流から日田を通過して福岡へ、その隣をいけば熊本方面の菊池などへ頻繁に行き来できる。そういうところはやはり日田の大きな特色になるだろうと思う。
- ・ 他所から見て日田の特色を述べる時、あるいは日田の地域住民が日田の特色を述べる時、まずは水郷日田、続いて林業、天領、文教などが特色として挙げらる。水郷日田がどのようにしてできたかという、周りに森があり、小さな川がつながって盆地に流れ込

み、さらに海へと流れていくという一つの繋がりがあある。天領日田についても、幕府が木材に目をつけたことから産業が発展した。日田の歴史文化の特色にはストーリーがあり、文教日田の繋がりのもそこから生まれたと思う。そのような視点で見ると、文化財は旧日田市に多いといわれているが、元来の起源は周囲の環境から生まれてきたと考えられる。

- ・ 近年、「住民研究者」としての市民の在り方が主流となってきている。市民は教えてもらうのではなく、自分で調べて自分でつくっていくという方向性は博物館も同様となる。見せてあげるのではなく、一緒になって考えていこうというかたちがよいかと思うし、地域計画においてもテーマについて市民と一緒に考えることで、一人一人が文化財について考えるきっかけになればよいと思っている。
- ・ 文化財には無形という形もあるが、やはり目に見える、豆田町、隈町という古い町並みというのは一番のポイントだと思う。例えば、豆田町が伝建地区に選定されているというだけで、何でもないとタン壁の民家が何千万かけてものすごい蔵造りの家になったり、真新しい過ぎるトイレができたりなど、ハリボテ的なものが蔓延しないよう、文化財保護課には文化財の本質的なことをしっかりやっていただきたいと思う。
- ・ 文化財保存活用地域計画というのは、日田にある指定あるいは未指定のものまで含めてあらゆる文化財を取上げていくといものになる。これはある意味で言うならば、日田市全体が博物館であるという考え方になっていく。そうすると、エコミュージアムというかたちで地域をとらえていく必要性が出てくると思う。エコミュージアムの場合にはそこに住んでる人たちがどのように参加していくかというのが重要となる。全ての人が、文化財に興味があるということはある得ないため、地域の歴史や文化といったものに詳しく、興味のある方を組織化するとよいかと思う。例えば市民学芸員というようなかたちで組織し、地域ガイドをしてもらったり、全体の集まりをつくって勉強していただいて、歴史文化についてより深く知っていただいたりという、エコミュージアム的な発想が必要になってくるのではないかと思う。

それと同時に、興味のある人だけではなくて、小学生や中学生といった若い人たちに、日田が非常に面白いところだということをどのように伝えていくのか考える必要がある。今、人口が流動化しているので子どもたちが大人になってからも日田にいるとは限りませんが、自分が育ってきた日田というところが、こんなにすばらしい場所だった、こういう面白い文化歴史を持っているところだ、という知識を持って日田から飛び出していったらうように考えていくと、若い人たちにどうやって歴史や文化に興味を持ってもらうのかを考えていくことが非常に重要なことになり、そうなってくると、社会教育だけではなく学校教育との連携もしていかなければいけないと思うので、幅広い市民に対する喚起を行っていただきたい。

- ・ エコミュージアムというのは地域の人々がミュージアムの担い手であり、その担い手が伝手でもある。様々な日田の遺産を伝えていく役割をすることが教育の問題でもあるわけだから、そのように考えれば、構想のなかで日田全体をエコミュージアムとする一つの方向として、お年寄りから若い人まで誰もが日田を語れるようなものを育てていくことで、継承が出来るというのが論法の一つの解決策だと思う。

委員が言われたように、担い手がないとか、お祭りのときの問題とか、項目ごとに色々あるけれど、日田の人間が全員体制で、我々が全体の担い手であり、語り手であり、伝えていくものであるとして、エコミュージアムを支えていくというような気持ちでやっていくというのを最後のところに書いてもらうと、よいストーリーになると思う。

みんなが担い手になることで、自分たちがその地域に誇りを持ち、そして誇りを持った人たちが伝えていくというように、市民みんなが博物館員として来訪者をお迎えし、語っていくというように、訪れた人々は博物館の人から説明を受け、どこに行ってもみんなが語るというイメージだと理解すればよいと思う。せっかくこのようなアイデアが出たので、ぜひ活かしていただきたいと思う。

- ・ 文化庁が示している指針の内容を見ると、地域計画の記載事項は第1号関係から第5号関係までである。その第2号関係の中に、当該市町村の文化財の保存及び活用を図るための講ずる措置ということがある。今回の地域計画を作成するに当たっては、やはり、地域あるいはそれを継承する子どもたちにどう知ってもらい、活用してもらい、そしてそれを守ってもらうかというのがメインではないかと思う。

そうしたときに、これから先の文化財の情報発信、普及啓発、人材育成が重要だと思う。

日田市にはいろいろな施設がある。文化財の保護所管課が所管しているのが12施設、観光課が所管している祇園山鉾や日田資料館、文化財保護課含む教育委員会が所管するものが全部で15施設あり、その中で重要な役割を持っている市立博物館、咸宜園教育センター、埋蔵文化財センターが3つの柱だと思う。それを、地域にどう発信するかという役割については、小学校区単位にある20館の公民館をつなぎ、公民館が地域をつなぎ、小学校とつないでいくといった学舎連携、地域連携が非常に大事になってくると考える。

- ・ 実行するためには、やり方次第だと思う。具体的には公民館があるけれど、教育の場でしたら学校がやはり重要だと思う。最終的には、学校の先生方がどう関わるかということがあって、公民館や博物館に行く、あるいは学校の現場でどうするか、そして、それらを全部連携させることが重要だということで、これもきちんと入れ込んでいただくとういと思う。

- ・ 学校教育の話が出たが、子どもたちにきちんと理解してもらうためには、先生方に文化財というのはどういうもので、どういう意義があるんだということを理解していただいて、授業計画の中に落とし込んでもらわないといけないと思う。そのためにはもう埋蔵文化財センターで持っている遺物をどんどん貸出して、実際に触れて、自分の目で確かめること

ではじめて理解ができる。これは学校教育も一緒になって、これからやっていただかないといけない部分であり、先生方に自分たちで授業計画を組んでいただいて、文化財を生徒に触れていただくというところをやっていただきたいと思う。

- ・ 文化財にツーリズム的な要素を今以上に入れていくべきだと思う。確かに、今、豆田町や咸宜園は観光的な要素となっているが、それ以外の部分にもツーリズムという要素を入れて、日田市民の方々はもちろん、市外にも恐らく興味のある方が結構いると思うので、そういう方々にも知ってもらい、外部応援団を増やしていくような取り組みを、観光という分野でできるとよいと思った。観光を目的に来ていただいた方々をしっかりと呼び込むというような視点まで広げて考えたほうがよいと思う。
- ・ 先ほど委員の意見にあった伝説だったり、通常の難しい指定になっている有形文化財であったり、無形文化財であったりという枠の中に入らない文化財は、どの程度計画の対象とするか。また、その名称については、例えば日田市の文化遺産などとするのか。そのまま文化財という言葉を使っても結構だが、その地域の宝ということが分かるような言葉を使い、どこまでを対象とするのかというのを最初に計画の中で説明を入れる必要があると思う。